

TEI P5における「monograph」定義とジャーナルを含める背景

はじめに

TEI (Text Encoding Initiative) のP5ガイドラインでは、書誌情報を構造化して記述するための要素として <biblStruct> が定義されています。その中で「monograph (モノグラフ)」にジャーナル (学術雑誌) が含まれるという定義が一見すると不自然に思えるかもしれません。本報告書では、TEI P5ガイドラインにおいて「monograph」がジャーナルを含む理由と、その背後にある書誌学的・歴史的背景について調査した結果を整理します。併せて、TEIが採用する文献の階層分類 (analytic / monographic / series) の意味や、図書館の目録規則 (MARC、AACR2、RDA) との関係、そしてこの定義がTEIコミュニティでどのように策定されたかについても考察します。

TEI P5ガイドラインにおける<monogr>要素の定義

TEI P5ガイドラインでは、<monogr>要素 (monographic level) について以下のように定義されています。

「<monogr> (monographic level) contains bibliographic elements describing an item (e.g. a book or journal) published as an independent item (i.e. as a separate physical object).」

①

すなわち、<monogr>要素は「書籍やジャーナルのように、それ自体が独立して刊行されたアイテム」を記述する書誌要素を含むことを意味しています ①。ここで言う「独立して刊行されたアイテム」とは、一冊の本や単一の雑誌号のように、それ単体で物理的に刊行されているものを指します。この定義から分かるように、TEIではジャーナル (雑誌) もmonographicなレベルに分類されており、<monogr>要素で記述する対象に含まれています。例えば、雑誌自体 (あるいは特定の巻号) は<monogr>として扱われ、そのタイトルは<monogr>内の<title>要素で記述されます (必要に応じて level="j" 属性でジャーナルであることを明示)

②。

TEIにおける文献の階層構造：analytic / monographic / series

TEIは書誌情報を階層構造で表現するために、analytic (分析レベル) ・ monographic (単行レベル) ・ series (シリーズレベル) という三つのレベルを定義しています ③ ④。これは図書館の書誌記述実務における一般的な区別に対応したものです ③。具体的には次の通りです。

- ・ **Analyticレベル** (分析レベル) : より大きな出版物の一部分として発表されたアイテム (例えば書籍中の章や雑誌論文) の書誌情報を表します ⑤。Analyticレベルでは著者名や論文 (作品) のタイトルなど、その部分自体の情報を記述します。
- ・ **Monographicレベル** (単行/モノグラフレベル) : 独立して刊行されたアイテム (例えば一冊の書籍や雑誌の特定号) の書誌情報を表します ①。Monographicレベルでは、その独立刊行物全体のタイトル、編者、出版情報 (出版社・出版年・巻号など) を記述します。
- ・ **Seriesレベル** (シリーズレベル) : モノグラフが属しているシリーズ (叢書やシリーズ刊行物) の書誌情報を表します ⑥。シリーズのタイトルや編集者、シリーズ中での番号などを記述します。

例えば、雑誌に掲載されたある論文の書誌を構造化して記述する場合、少なくとも2つの階層が必要となります⁷。一つは論文そのもの（記事）の情報を示す分析レベル<analytic>、もう一つはその論文を収録している雑誌（特定巻・号）の情報を示すモノグラフレベル<monogr>です⁷。場合によってはさらにその雑誌がシリーズに属していればシリーズレベル<series>を付加することもあります。別の例では、書籍シリーズ中の一冊に含まれる章の場合、章（analytic）、その書籍（monographic）、シリーズ（series）という3段階のレベル情報が存在します⁸。

TEIでは<biblStruct>要素内で、これらのレベルに対応する要素（<analytic>、<monogr>、<series>）をネストして書誌情報を記述します。あるいは簡易な<bibl>要素内では<title>要素の@level属性などでレベルを示すこともできます⁹。以下はTEIガイドラインに示されている雑誌論文の<biblStruct>記述例です。

```
<biblStruct>
  <analytic>
    <author>著者名</author>
    <title level="a">論文タイトル</title>
  </analytic>
  <monogr>
    <title level="j">雑誌名</title>
    <imprint>
      <biblScope type="vol">巻号</biblScope>
      <biblScope type="issue">号</biblScope>
      <date>出版年月</date>
      <biblScope type="pages">開始ページ-終了ページ</biblScope>
    </imprint>
  </monogr>
</biblStruct>
```

上記のように、論文タイトルや著者は<analytic>内に記述され、雑誌名や巻号・日付といった情報は<monogr>内に記述されます。<title level="j">とすることで、そのタイトルがジャーナル（逐次刊行物）であることを明示できます。

ジャーナルを「monograph」レベルに含める理由

では、なぜジャーナルが「monograph」の一種として扱われているのでしょうか？ これはTEIが採用した文献記述の階層モデルと、図書館の書誌実務上の慣習に由来しています。

TEIガイドライン自身が述べているように、「一般的な図書館実務では、ある大きなコレクションの中の個々のアイテム（論文や章など）と、独立した書籍・ジャーナル・コレクション（単行物）は明確に区別される」ものです³。また、同様に「シリーズ中の一冊の本」はそれが属する「シリーズ本体」とは厳密に区別されます³。この区別を反映して、TEIでは前述の通り分析（analytic）／単行（monographic）／シリーズ（series）の3レベルに分けて書誌情報を構造化しています。

ジャーナル（雑誌）は図書館界では典型的な逐次刊行物（serial）として分類され、単発のモノグラフとは区別されます。しかし、TEIの文脈では「雑誌そのもの」や「特定の号」も、それ単体で刊行された物理的単位とみなし、monographicレベルで表現することになっています¹。言い換えれば、雑誌は継続的に発行されるSerialですが、その一号一号は独立した冊子（刊行単位）でもあるため、TEIではそれをmonograph（独立出版物）と同等に扱っているのです。この設計上の判断により、論文の出典情報を<biblStruct>で記述する際には、本であれ雑誌であれ、その「ホスト（収録元）の出版物」は一律<monogr>要素で表現できるようになっています。

TEIガイドラインはこの点を明確に述べています。「TEIエンコーディングの目的上、ジャーナル（雑誌）やアンソロジー（論文集）はどちらもモノグラフとして扱われる。したがって雑誌のタイトルは<monogr>内で<title level="j">要素としてタグ付けし、雑誌所収の個々の論文等は解析レベル（analytic）で記述すべきである」という趣旨です²。つまり、**雑誌もアンソロジー（編集本）も、ともに単独の書誌単位としてmonogrにまとめられ、その中で雑誌であることを区別したい場合はlevel="j"を使う**という方針になっています²。

このアプローチによって、書誌記述の構造が単純化されます。**雑誌専用の別個の要素を設けなくても、monogr要素で本も雑誌も扱える**ため、データ構造が統一的です。実際、<monogr>内には<title>（資料タイトル）、<imprint>（出版情報：出版地・出版社・年月日など）、<biblScope>（巻号やページ範囲など）、<author>/<editor>（図書であれば編者等）といった汎用的な書誌要素が含まれます。雑誌の場合も、タイトル（雑誌名）、巻・号・年月日、ページといった情報を<monogr>内で記述できますので、本の場合と大きな違いはありません。その意味で雑誌の号は「**定期刊行されるモノグラフ**」として扱われているとも言えます。

言い換えると、TEIの<biblStruct>におけるmonographicレベルは「**独立した出版物レベル**」であり、それが単発の書籍であろうと定期刊行の一号であろうと、**一つの物理的・書誌的単位**として記述するという考え方です¹。この考え方は、**引用や参考文献リストの表記**とも合致します。論文を引用する際、典型的には「著者名、論文タイトル、雑誌名、巻(号)、年、ページ範囲」のように一つの文献エントリとして記述しますが、TEIではこれをanalytic部分（著者・論文タイトル等）とmonographic部分（雑誌名・巻号・年・ページ等）に分けて構造化しているわけです。結果として、**人間の目には一つの参考文献エントリに見えるもの**を、TEIは内部的に**階層構造としてモデル化**していることになります。

以上が、ジャーナルがmonographレベルに含まれる理由の概要です。要約すれば、「**雑誌号も書籍と同様にひとまとまりの出版物である**」という観点から、TEIでは雑誌をmonographに包含する定義を採用したのである。この設計はTEI P3（1994年）の頃から一貫しており、現在のP5でも踏襲されています^{10 11}。

図書館目録規則（MARC・AACR2・RDA）との関係

TEIのこのモデルは、図書館における従来の目録規則や書誌データモデルとも深く関係しています。図書館情報学の分野では古くから**モノグラフ（単刊）**と**逐次刊行物（連続刊行物）**を区別してきました。例えば**AACR2**（Anglo-American Cataloguing Rules, 2nd Edition）の定義では、「モノグラフ」とは「一巻または限定された巻数で完結する非逐次刊行物」と定義され、一方で「逐次刊行物（Serial）」は「番号付けされた継続的な刊行を意図した資料」と定義されています¹²。実際、AACR2では図書（単行本）と雑誌では適用される記述規則が異なり、カタログ作成上もモノグラフ担当とシリアル担当が分かれるなど、モノグラフ/シリアルの区別は重要でした¹³。

しかし、図書館目録において**雑誌論文（学術記事）の書誌を扱う場合**には、特殊な工夫が必要でした。図書館のOPACなどでは通常、雑誌論文そのものの書誌レコードは作らず、雑誌タイトル（シリアル）のレコードだけを持ちます。ただし、分析目録（analytic entry）として論文を個別に登録する場合には、「論文（構成要素）」と「雑誌（ホスト出版物）」の関係をリンク情報で表現します。**MARC21**フォーマットでは、この関係を指示する**リーダー/制御フィールドのコードやリンクフィールド**が用意されています。例えば**MARCのリーダー（Leader）の7文字目（Bib level）**には、以下のようなコードが定義されています¹⁴。

- **m** = 単一書誌（モノグラフ）レコード（例：単行本のレコード）
- **s** = 逐次刊行物レコード（例：雑誌タイトルのレコード）
- **a** = モノグラフ内の構成要素（analytic、モノグラフ中の一部分を表すレコード）
- **b** = 逐次刊行物内の構成要素（analytic、シリアル中の一部分を表すレコード）¹⁵

図書館システムで雑誌論文を個別に書誌登録する場合、論文に対してはLeader/07を**b** (Serial component) とし、その論文が収録された雑誌タイトルの情報はMARCの**773フィールド (Host Item Entry)**などで参照します。一方、雑誌タイトル自体はLeader/07を**s**とした逐次刊行物レコードとして別途カタログに存在します。つまり、伝統的な図書館目録では**論文と雑誌は別個の書誌レコード**で管理され、論文レコードから雑誌レコードへリンクを張る形で両者を関連付けていました。

これに対し、TEIの<biblStruct>は**単一の構造の中で論文とその収録雑誌情報の両方を表現**します。先述の通り<biblStruct>内に<analytic> (論文) と<monogr> (雑誌号) の要素をネストすることで、一つのXML構造の中に分析レベルとモノグラフレベルのデータを共存させています。この点で、TEIのアプローチは**書誌データの多レベル記述 (multi-level description)**と呼ばれる手法と一致します。図書館分野でも、逐次刊行物の中の論文や、シリーズ中の一巻を記述する際には多レベル記述を用いることがあります。例えば**国際原子力機関(IAEA)のINIS書誌ガイド**では、記事と雑誌の2レベル記述に言及されており、「雑誌中の論文の場合、論文自体がAレベル (分析レベル)、それを含む雑誌号がSレベル (シリアルレベル) として2つの書誌レベルが表される」と説明されています^{16 17}。他にも「論文集に収録された論文」ではAとM (Monographic) の2レベル、「シリーズ物のレポート」ではMとSの2レベル、といった具体例が示されています¹⁸。このように**ホストと構成要素を分けて記述する考え方は**図書館の書誌規則にも存在しており、TEIはそれをXMLベースで実現していると言えます。

TEIがジャーナルをmonographに含めた背景には、当時の図書館界の標準や通念を取り入れたことが考えられます。TEI P3の策定 (1990年代) 当時はAACR2とMARCが広く使われており、書誌記述の概念枠組みはそれらに依拠する部分が多くありました。実際、TEIガイドラインにこの階層モデルを提案した当人たち (図書館員や書誌の専門家が関与していたと推測されます) は、AACR2やISBDでの「**部分と全体**」「**逐次と非逐次**」の区別を踏まえて、TEIでもanalytic/monographic/seriesという区分を導入したのでしょう。ガイドライン中で「一般的な図書館実務では…」と断っていることから、図書館の手法になじみのない人への説明として意識的に言及していることが窺えます³。

その後登場したRDA (Resource Description and Access, 2010年～) では、「逐次刊行物」という用語は**継続資源 (continuing resource)** という概念に包括され、**刊行形態 (Mode of Issuance)** という区分で「単一ユニット (一度きりまたは既定の巻数で完結)」「継続 (無期限に続く)」「統合資源 (更新型)」といった分類がされています。RDAでも基本的にはAACR2の考えを引き継ぎ、**雑誌は継続資源 (Serial)** として扱われ、書籍は単一または有限のユニットとして扱われます。もっとも、RDAではフレームワークがFRBRベースになったため、**作品 (Work) や表現形 (Expression)** のレベルで寄与関係を結び付ける柔軟なモデルに変わりました。例えば「この論文は〇〇という雑誌 (という集合的作品) に含まれる」という関連性で表現します。とはいえ、実際の目録データでは引き続きMARC21が使われる場合が多く、モノグラフか逐次刊行物かの区別 (Leader/07や固定長フィールド008の継続性コードなど) は依然存在します¹²。

TEIはRDAの登場以前に設計された規格ですが、そのデータモデルは現在でも通用する柔軟性があります。むしろRDAのフレームワークに照らしてみると、TEIの<biblStruct>内でanalyticとmonographicを分けるのは**FRBRにおける「一部分 vs 全体」の関係**を記述しているとも解釈できます。また、TEIの<title>要素に `level="a"|"m"|"j"|"s"` といった属性値を与える方法は、データに簡易な**種別コード**を付与している点で、MARCのコード体系や目録の記述区分と平行な発想です² (例えば `level="j"` はジャーナルタイトル、`level="m"` はモノグラフタイトル、`level="a"` は記事タイトルを示す等)。このように、TEIの設計と図書館の書誌コントロールとの間には対応関係があり、クロスウォーク (データ交換の対応表) も作成されています^{19 20}。

定義策定の歴史的背景とTEIコミュニティでの議論

TEIにおける<biblStruct>の階層モデルと<monogr>の定義は、初期のTEI仕様から継承されてきたものです。1994年公開のTEI P3ガイドラインにも、現在とほぼ同じ文章で「論文が雑誌に収録される場合は分析レベル (論文) とモノグラフレベル (雑誌) の2段階が必要」「TEIでは雑誌や論文集をモノグラフとみなす」

といった記述が見られます^{21 10}。つまり、この方針は**TEI P3以来一貫している**と言えます。TEI P4 (XML版への移行期)を経て、P5でもこの部分に大きな変更は加えられていません。むしろP5でも同様の説明が再確認されており、前述の引用の通り「ジャーナルとアンソロジーはモノグラフとして扱う」という一文がしっかり含まれています²。

では、この定義が策定された当初に議論はあったのでしょうか。TEIの仕様策定プロセスでは、多くの分野専門家がワーキンググループを形成しディスカッションを重ねました。書誌記述に関しては、人文系研究者だけでなく図書館員や情報科学者も関与していた可能性が高いです。具体的な議事録やTEI-Lメーリングリストのアーカイブを調べると、細かなタグセットの提案と検討が行われた記録があります。当時の文脈では、電子テキストで参考文献を構造化する需要が既にあり、また図書館界でも電子目録の国際標準（例えば**ISBDやMARCの国際化**）が進んでいました。そうした背景の中で、**TEIは図書館で確立された概念を尊重しつつ、デジタル人文のニーズに合う汎用的なモデルを作ろうとしていた**と考えられます。

実際、TEI P3の<biblStruct>の設計は、当時存在した他の文献記述フォーマットとも類似点があります。例えば、人文学の文献データ管理で使われた**BibTeX**（論文の書誌管理フォーマット）や、図書館の**MARC AMC**（Archival and Mixed Collections向け）などでは、文献を種別（article, book, journalなど）で扱いながら、出典情報をまとめる工夫がなされていました。TEIはSGML/XMLという柔軟な構造記述の利点を活かし、**一つの文献参照を多層的に構造化する**という点で先駆的でした。⁹に見られるように、<bibl>要素内にネストした<bibl>を置く例（記事内に雑誌情報を<bibl>でカプセル化する）も示されています。これは現在で言えばメタデータの入れ子構造を許す設計であり、複数の出版形態にまたがる一つの作品の参照（例えば同じ論文が複数の雑誌や論文集に再録された場合）にも対応できる柔軟性を持っています²²。

コミュニティ内で特に「ジャーナルをモノグラフ扱いするのはおかしい」という異議があった記録は見当たりません。むしろ「ジャーナルを別扱いしない」ことは実用上合理的だったため、受け入れられたと言えるでしょう。例えばTEIの利用者が参考文献リストをエンコードする際、本と雑誌記事と論文集所収論文をそれぞれ同じ<biblStruct>で表現できますが、その際にmonogr要素の中身（タイトルや<biblScope>など）で違いを表現できれば十分だからです。TEIは必要なら<title>にlevel属性を付与する方法も用意しましたし²、または<monogr>内の<title>自体の名前で（例えば雑誌名なら慣例的にitalicにする等スタイルで）区別することもできます。要するに、**データ構造は統一し、表現や区別は属性やスタイルで対処する**という思想です。

図書館規則とのすり合わせでは、TEI側でMARCやAACRとのクロスワークの試みもなされています¹⁹。例えばTEIの<biblStruct>からMARC21への変換では、<analytic>部分がMARCの分析レコード相当、<monogr>部分がMARCのホストレコード相当、<series>部分がMARCのシリーズ情報（シリーズタイトルやシリーズ件名等）にマッピングできることが示されています。TEI公式Wikiにも各種書誌フォーマットとの対応表が掲載されており、TEIの汎用性が強調されています²³。この互換性・相互運用性を高めるためにも、**TEI内での用語や構造は図書館での用法に極力合わせる**という方針がとられました。その結果、「monograph」という言葉も図書館の文脈に沿って採用されたものの、**TEIでは文脈上ジャーナルも含むよう拡張して使っている**という状況になっています。

おわりに

TEI P5ガイドラインで「monograph」にジャーナルが含まれているのは、書誌情報を**階層的にモデル化する設計上の判断**によるものです。論文や章などの部分（analytic）と、それを収録する独立刊行物

（monographic）およびシリーズを明確に分ける発想は、従来の図書館目録実務に由来しており、TEIはそれを踏襲・応用しています。図書館のAACR2では雑誌はモノグラフではなくシリアルと定義されましたが¹²、TEIでは「**雑誌の一号**」という**独立した物理的単位**に着目してモノグラフとして扱っています¹。この統一的なモデルにより、書籍でも雑誌でも収録先の情報は<monogr>要素で一貫して記述でき、データ構造が簡潔になります。そして必要に応じて<title>要素の@level属性によって雑誌か書籍かを示すことで、出力時の体裁や識別も可能にしています²。

この定義の背景には、TEI策定時のコミュニティにおける**図書館情報学の知見の取り入れ**と、電子テキストにおける引用・文献管理のニーズがありました。歴史的に見ても、TEIが採用したanalytic/monographic/seriesの枠組みは約30年にわたり有効に機能しており、現在のデジタル人文学や図書館システムでも通用する考え方です。以上のように、TEIにおける「monograph」の定義は単なる語義以上の意味を持ち、**書誌データの構造化と伝統的目録法の融合**の産物と言えるでしょう。

参考文献・出典:

- TEI Consortium, TEI P5: Guidelines for Electronic Text Encoding and Interchange, Section 3.11.2 “Bibliographic Citations and References” ⁸ ⁷ ²⁴ ²
- Text Encoding Initiative, <monogr> Element Reference ¹ (TEI P5 Guidelines)
- TEI Consortium, TEI P3 Guidelines (1994) ¹⁰
- AACR2, Anglo-American Cataloguing Rules, 2nd ed. – Definition of Monograph and Serial ¹²
- IAEA INIS, Guide to Bibliographic Description – Section 1.7 on bibliographic levels (Analytical, Monographic, Serial) ¹⁸ ¹⁷
- OCLC, Bibliographic record leader elements – MARC21 Leader/07 codes for bibliographic level ¹⁵
- Brill Publishers, TEI XML Bibliographies Guide – discussion of title level codes and crosswalks ¹⁹ ²⁰

¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹¹ ²² ²⁴ **3 Elements Available in All TEI Documents - The TEI Guidelines**
<https://www.tei-c.org/release/doc/tei-p5-doc/en/html/CO.html>

¹⁰ ²¹ **Guidelines for Electronic Text Encoding and Interchange (TEI P3)**
<https://quod.lib.umich.edu/cgi/t/tei/tei-idx?type=HTML&rgn=DIV3&byte=659369>

¹² ¹³ **REVISING AACR2 TO ACCOMMODATE SERIALITY REPORT**
<https://www.rdatoolkit.org/archivedsite/docs/ser-rep.pdf>

¹⁴ ¹⁵ **Bibliographic record leader elements - OCLC Support**
https://help.oclc.org/Metadata_Services/OCLC_MARC_records/Content_designators_for_bibliographic_data/Bibliographic_record_leader/Bibliographic_record_leader_elements

¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ **Microsoft Word - inis1-rev8-amend3-SR-June2009-ev-9-off-6-corr 2pages less-2july.doc**
<https://www.iaea.org/sites/default/files/guide-to-bibliographis-description.pdf>

¹⁹ ²⁰ ²³ **Bibliographies · GitBook**
<https://brillpublishers.gitlab.io/documentation-tei-xml/bibliographies.html>